

環境班中間報告



石川 秋場 新屋 野澤 森政
新井 新部

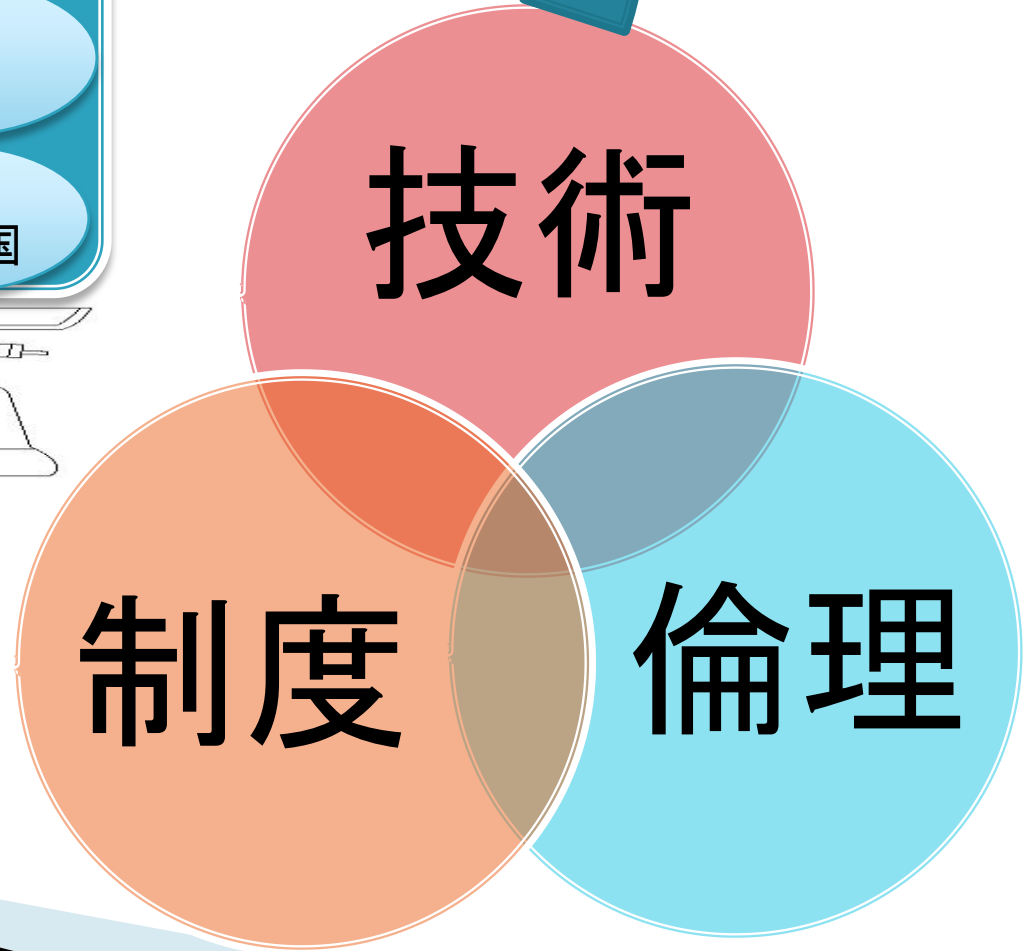
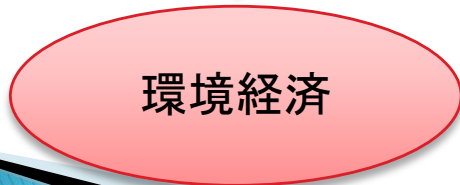
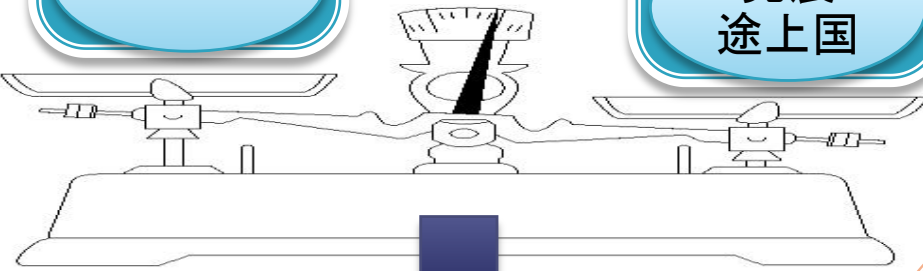
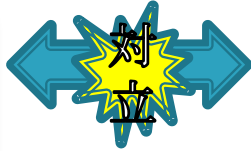
本日のアジェンダ

1. 前回のまとめ
2. 今回のテーマ
3. 上流
4. 中流
5. 下流
6. まとめ
7. スケジュール



前回のまとめ

アプローチ



前回のまとめ



今回のテーマ

「多摩市への環境政策の提言」

アプローチ



上流



中流



下流

多摩川上流 奥多摩町



■概要

・人口

総人口6741人、15歳未満466人、15～64歳3464人
65歳以上2465人。年々総人口が減っていくのと同時に
老年人口が増加してきている

・地理

青梅市、あきる野市、西多摩郡檜原村、山梨県、埼玉県
と隣接

町の面積は東京都の自治体の中では最大

総面積に占める林野面積の割合は95.9%

総面積に占める可住地面積の割合はわずか4%

・産業

1次産業:約2%、2次産業:30%、3次産業67%

多摩川上流 奥多摩町

■ 自然環境

- 全域が秩父多摩甲斐国立公園に包含されて、厳しい自然公園法の適用を受けており開発が厳しく規制されている。

施策名	事業の内容
林業との連携による森林の保全	1 間伐林業の推進(森林再生等)
	2 多摩川水源森林隊との連携による水源かん養機能の回復
ボランティア・NPOとの連携による森林の保全	1 ボランティア・NPOとの連携による森林保育
景観・美観の保持	1 公害対策事業
	2 不法投棄防止事業
	3 町有林や民有林の皆伐による樹種転換
	4 日照確保対策事業、地場産材活用奨励事業、花の里作り事業の連携による美観作り
環境モデルゾーンの整備	1 森林セラピーゾーンの設定

多摩川上流 奥多摩町 FW

■奥多摩町役場

- ・生活環境課 古矢さん

文献と実際との差

- 自然環境を中心とした政策はほとんどやっていない
- = 優先順位 低

- ・不法投棄
- ・林業の活性化
 - 循環型林業(植林、伐採)、密林と裸山の解消
- ・グリーンツーリズム
 - 体験農園「おくとま海沢ふれあい農園」、森林セラピー



多摩川上流 奥多摩町 FW

■体験農園

新たな街づくりとして奥多摩型の農村事業を展開するため
グリーンツーリズムを構築し、地域の活性化と観光振興を
図る



・遊休農地

・白井さんインタビュー

→ 駒込在住、3年目、月2~3回2,3泊していく。

→ 居住型農地は毎回満員



多摩川中流の市、多摩市

(「多摩市環境基本計画平成18年度→平成22年度版」より)

人口 約14万7千人(平成22年8月)、33歳～42歳、60歳～63歳が多い。

14歳以下↓、高齢者↑の傾向が予想される

自然環境

北:多摩川を境に府中市、東:稲城市、南:神奈川県川崎市と町田市、
西:八王子市と日野市に隣接

多摩丘陵の北端部を占める丘陵とこれを刻む小河川沿いに発達する谷底平野等から成る。

計画的な開発により発達してきた→良好な環境に恵まれているといえる(市民1人当たりの公園面積は12.46m²で、東京都内でトップ)。

市内を流れる河川の水質は、下水道整備に伴い良好に推移。

化学物質による環境汚染が懸念される

典型7公害のうち振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下についてはおおむね良好な状態

家庭型ごみ排出量は平成7年度を境に減少に転じている

産業

第1次産業0.05%、第2次産業9.60%、第3次産業90.35%(卸売・小売業、飲食店及びサービス業)

多摩川中流の市、多摩市

(「多摩市環境基本計画平成18年度→平成22年度版」より)

自然環境の保全(みどりの保全・創出、水辺環境の保全・回復、生物多様性の確保)

都市環境の保全(公園緑地の確保、景観の保全・創出、歴史文化・保全・継承、まちの美化)

公害の防止(大気汚染の防止、水質汚濁の防止、騒音・振動のお武士、有害化学物質対策、アスベスト等その他の公害の防止)

ごみの減量、資源の有効利用

エネルギーの有効利用

健全な水循環の確保

地球環境の保全等(地球温暖化の防止、オゾン層の保護、森林の保全)

人づくり(環境教育の充実、環境学習の拡充)

パートナーシップづくり

フォローアップ体制づくり(環境情報の収集・公開体制の確立、市民参加体制の確立)

循環と調和のまち
—和と環と輪のまちづくり—
みんなで創る多摩

多摩川中流(フィールドワーク)

- ▶ 多摩川中流とは→調布堰～羽村堰(世田谷区・川崎市・稲城市・調布市・府中市・国立市・立川市・武蔵村山市等と隣接)
- ▶ フィールドワーク→多摩川水道橋～関戸橋周辺(調布～府中)

人の様子	自然の様子	環境政策(府中、多摩市、市役所)	多摩川の 利用法
<ul style="list-style-type: none">・高齢の方が多い・日光浴をしている人が多い。・ホームレスの人たちの生活地帯となっている。	<ul style="list-style-type: none">・川の水はやや濁っている。・川鳥や鯉などの生き物も多い。・野草が生い茂っていて、あまり整備されてない様子。・府中周辺は道に沿った街路樹が整備されている。・不法投棄やゴミがととも多い。	<ul style="list-style-type: none">・多摩川の水質を年々調査し、かなりの改善。・環境講座や環境啓発活動の促進。・川周辺の緑地を整備し保全。	<ul style="list-style-type: none">・鮎釣りをしている人が多い。・隣接しているサイクリングロードでサイクリングやジョギング。・河川敷でサッカーや野球を楽しむ人々。・キャンプやバーベキューを楽しむ人々。

多摩川下流の市、川崎市

～川崎市多摩川プランについて～

- 地理** 神奈川県北東部に位置しており、北は多摩川を挟んで東京都に、南は横浜市にそれぞれ隣接している。
一部丘陵地を除いて起伏が少なく平坦な地域である。
- 人口** 約140万人 全国平均と比較すると、20代、30代の割合が多く、若い生産年齢代が多いとされている。また、人口密度が非常に高く政令指定都市では、大阪市に次ぐ過密都市である。(平成21年度)
- 産業** 第一次産業0.5%、第二次産業25.2%、第三次産業65.9%
- 環境** ・南東部(臨海部)の重工業地域と、北西部(内陸部、丘陵部)の住宅地域という性格の異なった地域の結合により都市が形成されている。
・シネマや音楽ホール等を有する大型複合商業施設があり、市域の内外から多くの集客がある。

多摩川下流の市、川崎市

～川崎市多摩川プランについて～

～基本理念～

川とふるさとの再生、市民協働による、多摩川ライフの創造

基本目標

I.ふるさとの川・多摩川を育む

II.多摩川の風景づくり

III.市民に身近な多摩川へ

IV.運動施設の利便性向上

V.子どもの生きる力を育む場の創造

VI.生命の賑わい豊かな多摩川へ

VII.参加と協働による川育て



多摩川下流の市、川崎市

～川崎市古市場周辺へのフィールドワーク～



多摩川まとめ	上流(奥多摩町)	中流(多摩市)	下流(川崎市)
自然環境	林野面積95%	ベッドタウン、1人当たりの公園面積NO1	工業地域と住宅地域
人	人口減 老年人口増	33~42歳多	20代30代多
産業(1次2次3次)	2%30%67%	0.05%9.6% 90.35%	0.5%25.2%66%
環境施策	森林保護 環境意識低	緑化政策 しかし特徴なし	多摩川の保護 積極的
目に付いた自然	森林多い、川きれい 空気がいい、不法投棄	不法投棄、川やや濁り、生物多い	川汚い、川に油浮いてる、不法投棄
目に付いた人の様子	外からは若者 内は老人	高齢者多い ホームレス多い	若い人多い
川の利用法	釣り、バーベキュー 登山	釣り、スポーツ バーベキュー	スポーツ

これからのスケジュール

9月

情報収集
アイデア

10月末

パワポ製
作開始

11月

執筆開
始

12月末

論文完
成